

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	近畿日本鉄道株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	大阪市天王寺区上本町6丁目1番55号
工場等の名称	近鉄名古屋駅
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅1丁目2番2号
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	鉄道の経営
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月12日 ～ 令和5年10月10日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 近鉄名古屋駅
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	takada-ryoma@rw.kintetsu.co.jp		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

「近畿日本鉄道株式会社 環境方針」

環境に優しい鉄道の利用を促進することが地球環境の保護につながることを念頭に置き、以下の方針に基づき環境保全活動を推進します。

1. 環境関連の法規制を遵守するのはもちろん、目標を定めて環境保全に努めます。
2. 省エネルギー、省資源、リサイクル、廃棄物の削減等への取り組みを通じ、地球の温暖化防止、環境負荷軽減に努めます。
3. 環境教育を通じて、社員の意識向上を図ります。
4. 地域社会との関わりを大切にし、環境保全活動への取り組みを通じ広く社会に貢献します。
5. この環境方針は社員へ周知するとともに、一般に公表します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

■ 近鉄グループ環境推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 219	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1, 219	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1, 211	t-CO ₂	1, 174	t-CO ₂	1, 219	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 0.7	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

否達成の理由としては、梅雨明けから記録的な高温日が続いたため空調機の稼働時間が長くなったことにより電力量が微増した。

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実践 (冷暖房機器)	・機器を更新する場合は省エネ効果の高いものを採用する。 ・空調機のフィルター清掃を定期的に行う。	・空調機のフィルター清掃を 10 日に 1 回実施する。	・エアコン更新は実施なし。 ・空調フィルター清掃は清掃日を決めて 10 日に 1 回実施した。
省エネルギー・省資源行動の実践 (照明器具)	・照明器具を新設・更新する場合は、省電力 LED 照明を採用する。 ・照明器具の清掃を定期的に行う。 ・執務室において不要な照明の消灯を心がける。	・ホーム照明等の更新時は省電力 LED 化を継続して実施する ・年 1 回照明器具清掃の実施。	・連絡通路や各種居室等を省電力 LED 照明に更新した。 ・年末に照明器具を清掃した。 ・不使用部屋の照明消灯を心がけ、巡視時に確認を行った。
省エネルギー・省資源行動の実践 (OA 機器)	・パソコンの省電力設定を徹底する。 ・コピー機等、使用しない機器の電源オフ。	・パソコン更新時は省電力設定を確実にを行う。 ・使用時以外はコピー機等の電源オフ。	・パソコン更新時に省電力設定を実施。 ・OA 機器は使用時以外の電源オフを徹底した。
ハイドロフルオロカーボン等の排出抑制	・大型冷凍機の定期的な点検を実施して、CFC の漏洩を防止する。 ・機器更新時には法に基づき適正に回収し、温暖化係数が低い物質や温室効果ガスに該当しない物質への転換を進める。	・年 1 回、冷凍機の点検を実施する。	・冷凍機の定期点検を年 1 回実施し、劣化部品の補修を行った。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・コピー用紙利用の効率化 (両面コピー、Nアップ等) を実施した。 ・乗車券、定期券のリサイクルを実施した。 ・社員への環境教育を実施した。 ・文房具品等は、可能な限りグリーン購入法の対象品を購入した。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月 8 日が「環境保全の日」であることを駅係員および技術係員に周知し、省エネルギー・省資源行動意識の向上を図った。
--